

平成27年5月31日

平成26年度
事業報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日まで)

学校法人 明治東洋医学院

平成 26 年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本学は学校法人明治東洋医学院が母体となって 1978 年（昭和 53 年）、自然環境に恵まれた京都府中部の地に、わが国初の鍼灸短期大学（3 年制）として誕生した。そして、1983 年（昭和 58 年）には社会のニーズにこたえ、短期大学を 4 年制大学へと改組し、明治鍼灸大学として開学した。1987 年（昭和 62 年）には、鍼灸医学教育のための臨床実習施設として、医歯学部以外では日本初の大学附属病院を設置、現代医学との関わりをさらに深めていった。以来、鍼灸医学に関する高等教育研究機関として今日まで歩み続けている。また、わが国初の柔道整復に関する高等教育機関として 2002 年（平成 14 年）には明治鍼灸大学医療技術短期大学部柔道整復学科を開設、2004 年（平成 16 年）には、わが国唯一の学士（柔道整復学）教育を行う保健医療学部柔道整復学科を開設した。更に 2006 年（平成 18 年）には、これまでの教育研究基盤を活かし、看護学部看護学科を開設した。そのような本学における建学の精神は「和の精神」を真髄となし、東西両医学を有機的に関連づけて、社会および国民の医療に貢献できる真の医療人を育成することに他なく、「人と人との和・人と自然の調和・東洋と西洋の融和」を掲げ、これを成し遂げていく。

(2) 教育目標

①鍼灸学部 鍼灸学科

鍼灸医学に関する高度な専門知識と優れた治療技術ならびに西洋医学の必要な知識を教授研究し、鍼灸診療において適応と禁忌を適切に判断し、患者に適合した治療方針を立て、治療効果を客観的に記録・評価できる自立した鍼灸師を育成するとともに優れた指導的人材を養成する。あわせて、常に誠意をもって患者に接し、国民の健康に資する学術の向上に努め、信頼される医療人を育成する。

②保健医療学部 柔道整復学科

柔道整復学に関する高度な専門知識と優れた治療技術ならびに西洋医学の必要な知識を教授研究し、柔道整復施術において適応と禁忌を適切に判断し、患者に適合した治療方針を立て、治療効果を客観的に記録・評価できる自立した柔道整復師を育成するとともに優れた指導的人材を養成する。あわせて、常に誠意をもって患者に接し、国民の健康に資する学術の向上に努め、信頼される医療人を育成する。

③看護学部 看護学科

生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性を培うとともに、看護学に関する高度な専門知識・技術を教授研究し、さらに、東洋医学の理論と知識をとり入れることにより、より創造的で主体的な看護が実践できる力を養い、人々の健康・福祉の向上に貢献できる人材を育成する。

④大学院 鍼灸学研究科

鍼灸医学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とし、その目的に沿った、指導性ある優れた人材を養成する。修士課程（博士前期課程）は、鍼灸医学における研究能力又は鍼灸実務者あるいは指導者としての高度の能力を養う。博士課程（博士後期課程）は、鍼灸医学の研究者又は教育者として国際的にも自立できる能力、及びその基礎となる東西両医学をはじめとした幅広い豊かな学識を養う。

(3) 学校法人明治東洋医学院の沿革

大正 14 年	4 月	山崎直文氏により大阪アベノ橋に明治鍼灸学校を創立
昭和 05 年	4 月	大阪府知事の認可を受け大阪市天王寺区に明治鍼灸学校を開設
26 年	3 月	終戦後 明治鍼灸学校廃校
34 年	4 月	吹田市に明治鍼灸柔道整復専門学校を再建
41 年	10 月	進学校法人明治学院設立により 寄附行為認可を受ける。
42 年	6 月	明治学院を明治東洋医学院と改称
51 年	4 月	専修学校医療専門課程の設置認可を受ける。
53 年	2 月	進学校法人を学校法人に変更認可を受ける。(文部大臣)
53 年	4 月	明治鍼灸短期大学を開学
58 年	4 月	明治鍼灸大学を開学
62 年	8 月	明治鍼灸大学附属病院を開院
62 年	12 月	明治鍼灸短期大学廃止認可
平成 03 年	4 月	明治鍼灸大学大学院鍼灸学研究科（修士課程）開設
4 年	4 月	明治鍼灸柔道整復専門学校を明治東洋医学院専門学校に改称
5 年	4 月	明治東洋医学院専門学校 あ・は・き教員養成科併設
6 年	4 月	明治鍼灸大学大学院鍼灸学研究科（博士後期課程）開設
14 年	4 月	明治鍼灸大学医療技術短期大学部 開学
16 年	4 月	明治鍼灸大学保健医療学部 開設
18 年	4 月	明治鍼灸大学看護学部 開設
20 年	4 月	明治鍼灸大学を明治国際医療大学に改称
21 年	8 月	明治鍼灸大学医療技術短期大学部廃止認可
23 年	4 月	明治国際医療大学大学院鍼灸学研究科臨床鍼灸学専攻 修士課程 開設
23 年	4 月	明治国際医療大学大学院鍼灸学研究科鍼灸学専攻（通信教育課程）修士課程開設

(4) 設置する学校・学部・学科等

学校名	開設年月	学部・学科・課程等
明治国際医療大学 (旧名称：明治鍼灸大学)	昭和 58 年 4 月	鍼灸学部 鍼灸学科
	平成 16 年 4 月	保健医療学部 柔道整復学科
	平成 18 年 4 月	看護学部 看護学科
	平成 3 年 4 月	大学院鍼灸学研究科 (修士課程)
	平成 6 年 4 月	大学院鍼灸学研究科 (博士後期課程)
	平成 23 年 4 月 平成 23 年 4 月	大学院鍼灸学研究科臨床鍼灸学専攻 修士課程 大学院鍼灸学研究科鍼灸学専攻 (通信教育課程) 修士課程
明治東洋医学院 専門学校	昭和 34 年 4 月	鍼灸学科 (医療専門課程) 柔整学科 (医療専門課程)
	平成 5 年 4 月	教員養成学科 (医療専門課程)

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況 (平成 26 年 5 月 1 日現在)

①大学・大学院

(単位：人)

学校名	学部・研究科	学科・専攻	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
明治国際医療大学	鍼灸学部	鍼灸学科	80	360	170	
	保健医療学部	柔道整復学科	60	244	128	
	看護学部	看護学科	60	260	283	編入生1人含む
	大学院 鍼灸学研究科 (博士後期課程)	鍼灸学専攻	4	12	10	
	大学院 鍼灸学研究科 (修士課程)	鍼灸学専攻	8	16	10	
		臨床鍼灸学専攻	8	16	8	
鍼灸学専攻 (通信教育課程)		16	32	33		

②専門学校

(単位：人)

学校名	学科	入学定員数		収容定員数		現員数		摘 要
		昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	
明治東洋医学院専門学校	鍼灸学科	120	60	360	180	215	71	
	柔整学科	60	60	180	180	165	98	
	教員養成学科	25		50		18		

(6) 役員・評議員・教職員の概要 (平成 26 年 5 月 1 日現在)

①役員

定員数 理事 11 名、監事 2 名

役 職	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
理 事 長	中 川 雅 夫	常 勤	平成 12 年 5 月理事就任 平成 22 年 5 月理事長就任
常務理事	岩 井 直 躬	常 勤	平成 23 年 6 月理事就任 平成 24 年 6 月常務理事就任 (明治国際医療大学学長)
常務理事	谷 口 和 彦	常 勤	平成 18 年 6 月理事就任 平成 22 年 6 月常務理事就任 (明治東洋医学院専門学校長)
常務理事	吉 田 和 夫	常 勤	平成 22 年 9 月理事就任 平成 22 年 9 月常務理事就任
理 事	小 原 圭 三	非常勤	昭和 53 年 4 月理事就任
理 事	明 石 貴 英	非常勤	平成 2 年 5 月理事就任
理 事	鷹 峰 道 雄	非常勤	平成 18 年 4 月理事就任
理 事	嶺 尾 徹	非常勤	平成 19 年 4 月理事就任
理 事	佐々木稔納	非常勤	平成 20 年 12 月理事就任
理 事	今 西 二 郎	常 勤	平成 22 年 6 月理事就任
監 事	西 育 良	非常勤	平成 23 年 4 月監事就任
監 事	田 中 諭	非常勤	平成 23 年 6 月監事就任

②評議員

定員数 25名

役 職	氏 名	主な現職等
評 議 員	中 川 雅 夫	学校法人 明治東洋医学院 理事長
評 議 員	岩 井 直 躬	明治国際医療大学 学長 明治国際医療大学 医療センター長
評 議 員	谷 口 和 彦	明治東洋医学院専門学校 校長 明治東洋医学院専門学校 柔整学科長
評 議 員	明 石 貴 英	明石鍼灸院 院長
評 議 員	鷹 峰 道 雄	曹洞宗 泉谷寺 住職
評 議 員	吉 田 和 夫	学校法人 明治東洋医学院 本部事務局長・総務部長
評 議 員	安 藤 文 紀	明治東洋医学院専門学校 教員 明治東洋医学院専門学校 鍼灸学科長
評 議 員	矢 野 忠	明治東洋医学院専門学校 教員 明治東洋医学院専門学校 教員養成学科長 明治国際医療大学 特任教授
評 議 員	小 西 幹 夫	小西鍼灸接骨院 院長
評 議 員	西 田 章 通	西田鍼灸院 院長
評 議 員	松 岡 憲 二	明治東洋医学院専門学校 非常勤講師
評 議 員	鑪 野 佳 充	明治国際医療大学 教授
評 議 員	山 崎 立 実	明治国際医療大学 客員教授
評 議 員	吉 井 栄 人	吉井鍼灸整骨院 院長
評 議 員	田 中 博	田中針灸治療所 院長
評 議 員	浅 田 忠	象山院鍼灸院 院長
評 議 員	谷 口 剛 志	明治東洋医学院専門学校 教員 明治東洋医学院専門学校 附属治療所長（鍼灸科）
評 議 員	角 谷 英 治	明治国際医療大学 教授
評 議 員	福 井 淳 子	福井整骨鍼灸院 院長
評 議 員	山 本 淳	山本鍼灸整骨院 院長
評 議 員	藤 井 義 巳	明治東洋医学院専門学校 学校事務部長
評 議 員	岡 本 武 昌	明治国際医療大学 教授 明治国際医療大学 保健医療学部長
評 議 員	片 山 憲 史	明治国際医療大学 教授

③専任教職員

内 訳	専任教員数	専任職員数	備 考
法人本部		19	
明治国際医療大学	118	133	
明治東洋医学院専門学校	30	14	
総 計	148	166	
平均年齢	46.8	41.0	

(7) 学術交流協定校の状況

明治国際医療大学は、次の協定校・協定団体と学術交流に関する包括協定の締結を行っている。

- ①京都府立医科大学
- ②The College of Acupuncture and Moxibustion of A.P.A.E. for Medical Doctors Only
(ポルトガル共和国 電気鍼協会大学校)
- ③Sport Lisboa e Benfica (ポルトガル共和国 総合スポーツクラブ)
- ④特定非営利活動法人アムダ Association of Medical Doctors of Asia

2. 事業の概要

大学・学校の教育機関を取り巻く環境は、18歳人口の減少に伴う大学間競争等により、志願者減少の厳しい状況が続く中、学院の健全な運営を図るため、中長期計画（経営改善計画）に基づいた事業の推進及び教職員の意識改善に取り組んだ。各事業の主な概要は以下のとおりである。

(1) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

【法人本部】

①大学の新学科及び新キャンパス計画の策定

大学の新学科及び新キャンパスの将来構想について検討を進めてきたが、具体的な計画策定には至っていない。引き続き、社会ニーズや他大学の動向を把握しつつ、将来計画の検討・策定を進めていく。

②施設改修計画の推進

経年経過による老朽化が進む大学・病院・学校施設の具体的な「施設改修計画」の策定には至っていない。優先度、緊急度及び全体の財政状況を勘案し、順次整備を進めていく。また、耐震補強が必要な大学2号館については、大学の将来計画（新学科及び新キャンパス構想）と併せて検討を進める。

③職員の人材育成（SD）の促進

経営改善計画に基づき、平成26年度は、職員を対象としたSD研修（スタッフ・ディベロップメント）

を学内で2回、外部機関で14回（コンソーシアム京都9回、日本私立大学協会5回）実施し、職員の人材育成、職能開発に積極的に取り組んだ。

【大 学】

①日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の受審

平成26年10月に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合しているとの認定を受けた。なお、今回の認証評価の結果を受け、次年度以降は、次の改善点を重要課題として、大学改革を推進する。

- ▶鍼灸学部及び保健医療学部の収容定員充足率の改善
- ▶安定した財務基盤の確立
- ▶医学教育研究センターの組織的な運営体制の確立

②大学教育の質的転換を図る教育改革

大学教育の質的転換を図ることを目的として、教育課程検討委員会及びファカルティディベロップメント委員会等を中心に取り組んだ結果、「私立大学等総合改革支援事業」のタイプ1（教育の質的転換）に選定された。これにより、「学修情報システム」「リアルタイム教学情報提供システム」を導入し、学修に必要な情報を多元的に提供する環境を整えた。

③学生支援体制の強化

留年・退学率の抑制を図るため、教学部長及び学部長を中心として、年7回（臨時含む）のアドバイザーミーティングを開催し、学籍異動の可能性のある学生については「学籍異動経緯書」を作成して情報共有を行うとともに、「卒業生満足度アンケート」「学修実態行動把握アンケート」等をもって学生意見の集約に努めた。

④入学定員充足率の改善

高校訪問の早期実施及び高大連携講座の実施等により高等学校との連携強化を図り、オープンキャンパスの動員数は昨年度を上回り、出願増に繋ぐことができた。また、年度途中から推し進めた「スポーツ振興プロジェクト」では、4つの強化指定クラブを設け、選手のスカウトによる学生募集を行い16名の入学生を獲得し、新たな学生募集の形とした。また、鍼灸学部及び保健医療学部は、入学定員の削減（鍼灸学部80名→50名、保健医療学部60名→40名・3年次編入学2名減）を行い、課題となっていた収容定員充足率の改善に繋げた。

⑤研究支援体制の充実と外部資金の獲得強化

学内での研究交流を活発にするため、全学横断的シンポジウム、学内研究助成成果発表会、全学研究ポスターワークショップ2回を開催し、協力・共同体制の確立、成果の共有、討論の場の確保を図った。

また、科学研究費の獲得に向け、全教員を対象にキックオフセミナー、外部講師による講演会・説明会、学内公募要領等説明会を実施した。

【平成 26 年度外部研究資金の採択状況】

- ア. 科学研究費 5 件
- イ. 厚生労働科研費 1 件
- ウ. 私立大学等研究設備整備等補助金 1 件
- エ. 受託研究 5 件
- オ. 奨学寄附金 1 件
- カ. その他の外部資金 5 件

⑥国際交流の推進とグローバル人材育成への取り組み

鍼灸学部を中心に、アメリカのミシガン州立大学連合日本センター、Maeda Acupuncture & Medical Therapy Group 及び韓国釜山大学校から計 20 名の研修生を受け入れるとともに、国際学術交流講演会を計 2 回開催するなど、国際交流の推進に取り組んだ。また、昨年から実施している“Sport Lisboa e Benfica”との交流協定に基づくポルトガルでの海外研修を 8 月（10 日間）に実施し、教員、学部生、専門学校生を含む 10 名が参加し、スポーツ医療施設の見学及びスポーツ障害に対する治療等の研修を行った。

⑦地域連携の推進

南丹市との包括協定による「南丹市・明治国際医療大学連携協力会議」を開催し、地域課題と発展に向けた方策についての意見交換を行い相互で検討を進めるとともに、南丹市の「市民提案型まちづくり活動支援事業（学生提案型）」に 6 件応募を行った結果、すべて採択され南丹地域での課題解決に向けた事業に取り組んだ。また、学内研究助成補助金においては、昨年度に続き「地域貢献を志向した研究課題」を募集し、6 件の採択を行った。

【病院等】

①附属病院における入院患者増加対策

入院患者増対策として、平成 26 年度診療報酬改定により新たな施設基準として設けられた地域包括ケア病床の届出を平成 26 年 9 月に実施し、一般病棟 114 床を一般病床 96 床、地域包括ケア病床 18 床への再編を図った。地域包括ケア病床は急性期後のリハビリを主体とした在宅復帰支援を目的とする病床であり、地域包括ケア病床の届出により急性期から在宅復帰支援の医療体制を構築した。また、在宅復帰後の患者に対し必要な医療を継続的に提供するため、訪問診療・看護体制を強化した在宅療養支援病院の届出を併せて実施し患者確保に努めた。

②地域医療機関との役割分担による診療連携強化

附属病院に地域連携室の設置を行い、専任スタッフとして医師 1 名、看護師 1 名、医事課職員 2 名を配置し近隣医療機関等との病診連携の体制強化、介護・福祉機関との連携強化を図り、円滑な入退院調整に繋げた。また今後は患者紹介率の向上にも努め、地域医療連携体制の更なる強化を図る。

③診療材料の管理体制の構築と経費削減

経費抑制対策として医薬品及び診療材料の適正在庫の調査・見直し及び価格交渉を実施、医療収入対

変動経費率が平成 25 年度 44.1%、平成 26 年度 41.4%で対前年度比▲2.7%の経費抑制を図った。また、PACS システム（医用画像診断支援システム）の導入に着手、設置は平成 27 年度となるが導入によりフィルムレス化に伴う X 線フィルムの購入が不要となり年間約 1,000 万円程度の更なる変動経費の抑制が期待される。

【学 校】

①入学定員充足率の向上（柔整学科午前コース設置の検討）

社会人の志願者確保が年々厳しくなる状況から、高校生対象を主軸とする入試制度の強化を図った。スポーツトレーナーを志願する高校生を中心とした AO 入試制度の実施や引き続き学内入試（W ライセンス取得）制度による在學生及び本校卒業生への広報に努めるなど、学生確保に努めた。また、高校生の入学者の割合の増加に伴い、午前授業のニーズが高くなってきたことから、柔整学科については、午前コースの設置を考慮し、昼間部の定員増加を認可申請し、平成 26 年 12 月 8 日付けで昼間部定員 60 名から 90 名に定員増の認可を得て、広報に努めた。

②教育課程の改訂、教育内容の充実

教育のより効率化を図ることを目的として、学年配当及び教育時間数の一部見直しを行い、平成 26 年度に完成年度を迎えた教育課程を改訂した。平成 27 年度入学生から実施する新教育課程は、科目間の連続性を意識し、積み上げ方式とした教育課程とし、また、目的意識や基礎学力の異なった学生が同時に学習することから、選択科目を開設し、個々の学生に応じた教育の提供を目指すこととした。

③学生満足度の向上

昨年度に引き続き、学生満足度アンケート、授業評価アンケートを実施し、これを基に学生目線の教育、学生支援の強化を目指して諸改善に取り組んだ。特に学習支援制度の充実を目指し、校舎閉館時間の延長（夜間 10 時まで）やフォロー授業の実施など、学生の自学自習できる時間の確保と体制を進めた。また、学生の要望に合わせたセミナーやスキルアップセミナーの充実に加え、クラスアドバイザー制度の活性化に努めた。

④卒業生との連携の強化

同窓会ホームページの更新を積極的に実施し、ホームページの充実を図った。また、平成 26 年度は、校友会や明理会において年 6 回の研修会（参加者数 計 633 名）、明柔会では、学術大会（参加者 181 名）を開催し、同窓会活動の活性化に努め、卒業生との連携の強化に努めた。また、本校同窓会において卒業生のニーズに対応した卒後研修会等や在校生へのスキルアップセミナーの開催・充実をはかり、卒業生と在校生との連携に努めた。また、学生のニーズを基に就職相談会を開催し、卒業生との情報交換に取り組んだ。

⑤「職業実践専門課程（仮称）の文部科学大臣認定」への取り組み

平成 26 年 3 月 31 日付けで「職業実践専門課程」として認定を受け、平成 26 年度は、企業等との連携を深め、教育課程の見直し、自己点検評価に取り組んだ。教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会において検討された課題について、更に検討を進めることとした。

⑥「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）認定」への取り組み

平成 26 年に「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」について厚生労働省へ指定申請を行っており、同制度は、社会人経験のある学生を対象とする経済的支援のため、平成 26 年 10 月から「専門実践教育訓練」として拡充され、本校は平成 26 年 8 月 18 日付けで全学科の講座がその指定を受け、志願者の広報に努めた。今後更に、専門実践教育訓練給付金について本校ホームページや対象社会人へ同制度の案内に努め、学生確保を目指す。

⑦地域連携の推進

地域との連携をはかり、地域に信頼される専修学校を目指して、地域住民への健康管理や東洋医学の啓発などのため、平成 26 年度は公開講座を年間 9 回開催し、(参加者計 151 名：昨年度比 58 名増)、近隣駅等へポスター掲出するなど附属治療所の患者確保に努力した。また、その他「地域貢献と学生への挨拶・美化意識の啓発」のため、月 2 回程度、近隣地域の学生通学路の清掃活動にも取り組んでいる。

(2) 施設等の状況

①現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

所在地	施設等	面積等	取得価額	帳簿価額
明治国際医療大学 キャンパス (京都府南丹市)	校地	178,155 m ²	1,373,920 千円	1,373,920 千円
	校舎 8 棟	17,868 m ²	3,233,848 千円	1,840,899 千円
	附属病院	11,066 m ²	3,095,903 千円	1,063,480 千円
	その他 附属施設	8,886 m ²	2,951,523 千円	1,336,905 千円
明治東洋医学院 専門学校キャンパス (大阪府吹田市)	校地	9,545 m ²	1,878,157 千円	1,878,157 千円
	校舎	6,534 m ²	2,300,671 千円	982,080 千円
	その他 附属施設	3,003 m ²	456,577 千円	304,422 千円

3. 財務の概要

①資金収支計算書

収入の部		(単位 千円)		
科 目	平成26年度	平成25年度	増 減	
学生生徒等納付金収入	1,819,646	2,016,095	△196,449	
手数料収入	16,224	14,600	1,624	
寄付金収入	4,320	1,200	3,120	
補助金収入	265,187	291,223	△26,036	
資産運用収入	207,232	83,741	123,491	
資産売却収入	1,521,545	1,300,624	220,921	
事業収入	115,438	143,694	△28,256	
医療収入	1,708,544	1,725,384	△16,840	
雑収入	272,266	135,835	136,431	
前受金収入	378,742	379,254	△512	
その他の収入	498,059	487,003	11,056	
資金収入調整勘定	△939,040	△856,086	△82,954	
前年度繰越支払資金	2,280,102	3,929,529	△1,649,427	
収入の部合計	8,148,269	9,652,101	△1,503,832	

支出の部				
科 目	平成26年度	平成25年度	増 減	
人件費支出	2,695,018	2,514,677	180,341	
教育研究経費支出	1,620,452	1,700,294	△79,842	
管理経費支出	158,390	183,315	△24,925	
借入金等利息支出	1,357	3,464	△2,107	
借入金等返済支出	60,000	180,000	△120,000	
施設関係支出	77,130	42,496	34,634	
設備関係支出	92,121	81,562	10,559	
資産運用支出	918,605	2,401,393	△1,482,788	
その他の支出	354,762	515,491	△160,729	
資金支出調整勘定	△309,005	△250,697	△58,308	
次年度繰越支払資金	2,479,437	2,280,102	199,335	
支出の部合計	8,148,269	9,652,101	△1,503,832	

(注) 金額は千円未満を切り捨てしているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。

なお、以下の表についても同様である。

②消費収支計算書

消費収入の部

(単位 千円)

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
学 生 生 徒 等 納 付 金	1,819,646	2,016,095	△196,449
手 数 料	16,224	14,600	1,624
寄 付 金	6,280	3,426	2,854
補 助 金	265,187	291,223	△26,036
資 産 運 用 収 入	207,232	83,741	123,491
資 産 売 却 差 額	545	33	512
事 業 収 入	115,438	143,694	△28,256
医 療 収 入	1,708,544	1,672,414	36,130
雑 収 入	272,436	162,675	109,761
帰 属 収 入 合 計	4,411,536	4,431,910	△20,374
基 本 金 組 入 額 合 計	△153,808	△283,911	130,103
消 費 収 入 の 部 合 計	4,257,728	4,130,208	127,520

消費支出の部

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
人 件 費	2,683,676	2,527,215	156,461
教 育 研 究 経 費	2,022,803	2,098,853	△76,050
管 理 経 費	193,186	221,901	△28,715
借 入 金 等 利 息	1,357	3,464	△2,107
資 産 処 分 差 額	6,188	1,797	4,391
徴収不能引当金繰入額	1,897	1,376	521
徴 収 不 能 額	4,696	1,475	3,221
消 費 支 出 の 部 合 計	4,913,806	4,856,084	57,722
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	656,077	725,876	△69,799
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	5,520,619	4,794,743	725,876
基 本 金 取 崩 額	0	0	0
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	6,176,697	5,520,619	656,078

③貸借対照表

資 産 の 部 (単位 千円)

科 目	平成26年	平成25年度	増 減
固 定 資 産	14,202,466	15,069,026	△866,560
流 動 資 産	3,130,051	2,781,494	348,557
資 産 の 部 合 計	17,332,518	17,850,521	△518,003

負 債 の 部

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
固 定 負 債	1,229,732	1,302,069	△72,337
流 動 負 債	791,185	734,582	56,603
負 債 の 部 合 計	2,020,917	2,036,651	△15,734

基 本 金 の 部

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
第 1 号 基 本 金	21,111,297	20,957,489	153,808
第 4 号 基 本 金	377,000	377,000	0
基 本 金 の 部 合 計	21,488,297	21,334,489	153,808

消費収支差額の部

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	6,176,697	5,520,619	656,078
消費収支差額の部合計	△6,176,697	△5,520,619	△656,078

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目	平成26年度	平成25年度	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,332,518	17,850,521	△518,003